

監修

首都大学東京(東京都立大学)
工学博士 中林一樹 教授

写真提供:ロイター/アフロ



四川大地震(中国)M8
2008年5月12日



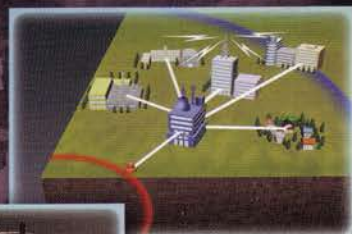
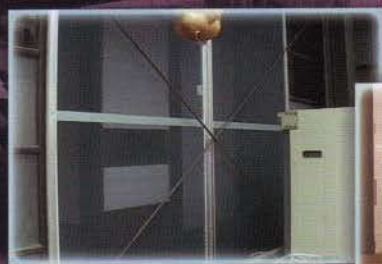
新潟県中越沖地震(M6.8 震度6強)
2007年7月16日



岩手・宮城内陸地震(M7.2震度6強)
2008年6月14日

地震に備えて 今、やるべきこと

緊急地震速報が流れたら、どうする?



家具を固定する

ねらい

平成19年10月1日から、緊急地震速報の一般への提供がスタートしました。このことによって、大きな揺れがくる前の数秒から数十秒をどう効果的に使い、被害を減らすかというのが、地震対策の重要な課題となっています。また、首都で直下型地震が起こった場合、高層ビルを日常的な生活空間とする人びとを襲うであろう、エレベーターへの閉じこめなどのさまざまな問題、あるいは、おびたしい数の通勤・買い物客が帰宅できなくなるという「帰宅困難者」の問題など、現在の都市ならではの新しい問題に対応していかなければならない状況になっています。

そこで、本作品では、緊急地震速報という新しいシステムや、「高層難民」「帰宅困難者」といった新しい問題をふまえて、いかに命を守り、被害を減らすか——その地震対策をわかりやすく示すことを目指しました。

地震に備えて 今、やるべきこと

緊急地震速報が流れたら、どうする？

作品の概要

■近年、頻発する大地震

日本では、ここ数年、震度6以上の地震が相次いで起こり、近い将来、もっと大規模な地震が起こるのではないかと懸念されています。私たちは大地震から、どのようにして命を守りたいのでしょうか。近年の代表的な地震の被害を検証しながら、その対策を探ります。

■想像を超えた自然災害の恐ろしさ

1995年1月17日、兵庫県南部地域を直下型地震が襲いました。6434人が亡くなるという未曾有の大災害となった阪神・淡路大震災です。その後も、日本では大きな地震が相次ぎ、死傷者が出た地震だけでも80を超えています。

特に被害の大きかった、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震の被害の様子を取り上げ、直下型地震の恐怖を改めて検証します。記憶に新しい2008年5月に中国で起きた、四川大地震の震災直後の映像からも、大地震の恐ろしさが、まざまざと伝わってきます。

■地震が起きる仕組み

では、直下型地震はどうして起こるのでしょうか？ここでは、そのメカニズムを分かりやすく説明します。活断層分布図を見ると、日本には、今、分かっているだけで2000以上の活断層があり、いつ、どこで地震が起きるか予断の許されない状態。大地震に対する備えは、正に急務と言えます。

更に地震には、内陸直下型の他に津波の被害が起こりやすい海溝型といわれるものがあります。2003年9月に起きた十勝沖地震では、地震直後に津波が押し寄せ、大きな被害を出しました。

■大地震発生！その時、どうする？

被災者の方にマイクを向けると、大地震発生当時、慌ててしまって何もできなかったということです。

ここでは、地震発生時の対応策を、一軒家の家の中にいた場合、マンションの一室にいた場合、など、シチュエーション別に詳しく説明します。

■安全に避難する方法、情報収集・安否確認

避難所まで安全に避難するには、どのような注意が必要でしょうか？家を出る時の注意点は？、非常持ち出し品は？、避難所までの道の選択は？など、詳しく説明します。

重要なことの一つに、地震後の情報収集と安否の確認があります。どんな、情報収集手段があるのでしょうか？分かりやすく解説します。

■命を守る日頃の備え・そして緊急地震速報

日頃の備えの代表的なものに、家屋の耐震補強があります。最近、開発されている安価な耐震補強法についても紹介します。その他、家具の転倒防止、ガラスの飛散防止、水の重要性、トイレ対策など、イザという時、必ず役立つ地震対策の知恵も取り上げました。そして今、注目されている緊急地震速報の受信装置についてもふれていきます。

監修 首都大学東京(東京都立大学)
工学博士 中林一樹 教授

企画・制作統括 高木裕己
脚本・監督 川崎けい子
撮影 松尾研一
選曲 HIROMI
イラスト 正者章子
ナレーター 遠藤たつお
助監督 保母新之助 阿部伸太郎

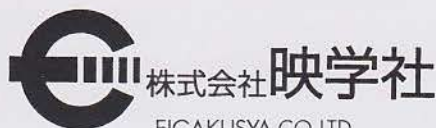
企画協力 内閣府認証NPO法人
帰宅支援ネットワーク

協力 湘南モールフィル
株式会社Jコーポレーション
NTTドコモ

映像提供 株式会社パスコ
ロイター/アフロ

制作著作 株式会社 映学社

●お問い合わせ、お買い上げは……



株式会社 映学社

EIGAKUSYA CO., LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-15-2池与ビル3F
TEL: 03-3359-9729(代表) FAX: 03-3359-4024
<http://www.eigakusya.co.jp/>